

2019年度安全に関する取り組み状況

はじめに

平素より、東海バスをご利用いただき、まことにありがとうございます。

2019年度の東海バスグループ5社の運輸安全マネジメントについては、バス各社が安全に対する様々な取り組みを主体的に計画・実行し、会社間相互による内部監査を実施することで取り組み内容のチェックを行い、この内部監査で指摘された事項を改善、新たな安全対策に取り組んでいくことでPDCAサイクルを回し、安全性の向上を図ってまいりました。

全社共通の「横断歩道事故の撲滅・飲酒運転の撲滅」を年間スローガンとして掲げ、交差点での右左折時の徐行および一旦停止を年間取り組み事項とし、東海バスグループ全体で、歩行者・自転車等の弱者を危める事故の防止に取り組みました。また、2018年度から開始した新入運転士の入社3ヶ月研修、運行管理者・主任運転士の外部自動車教習所による指導者研修、乗合バス運転士コンテストを実施し、運転士の安全意識の向上を図りました。

安全装置においては後付け衝突防止補助システム「モービルアイ」を貸切車、高速車に既に取り付け済みですが、一部乗合車においても取り付けを開始し、更なる安全性の向上を図りました。

以上のような取り組みにより、2019年度安全目標の一つである全社共通の「横断歩道周辺における人身事故ゼロ」を達成することができました。

なお、この度東海バスグループ5社を統合し、2020年4月1日より、「株式会社東海バス」として新たにスタートいたしました。これを機にこれまでの安全方針、重点施策、取り組み内容の見直しを行いました。

まず、安全方針として「安全に、より安全に、もっとも安全に」を掲げ、最も安全と考えられる判断・行動を常にとり、基本動作の実行、確認の励行、連絡の徹底により、法令の遵守と事故の防止に全力を尽くします。

そして、お客さまに「より安全・安心・快適なサービス」の提供を目指し、全従業員が一丸となって、運輸安全マネジメントに取り組んでいくことで、更なる安全性の向上に努める所存でございます。

2020年6月

株式会社東海バス

取締役社長 眞野大輔